

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2013年11月26日

No.10

2013年度 年末手当妥結

基準内賃金×1.3ヶ月

2013年度 年末手当交渉最終報告

中央本部は第4回交渉以降、緊急団交を含め断続的に交渉・折衝を行い、職場からの闘いと結合して最後まで要求実現に向けてたたかいを展開してきました。本日19時15分より年末手当の最終交渉に臨み、席上会社は基準内賃金の1.3ヶ月分とする回答を示しました。

回答にあたり会社は、①回答指定日を大幅に超えての回答になったことの重みを受け止める。②交渉を通じて貨物労組より様々な面で指摘を受けた事柄については真摯に受け止める。③現在、収入確保・拡大に向けて取り組んでおり、少しずつではあるが効果が出始めている。今後も収入確保に向けて全力で取り組む。④今後も新中期経営計画の策定等、重要な課題が山積しているが、労使でこの難局を乗り越えたい。と回答しました。

これに対して中央本部は、①申し入れ以降、夏季手当の交渉経緯にこだわってきた。交渉経緯に則った議論が出来ないことは、労使の信頼関係に関わる重要な問題である。②貨物会社のおかれた状況は厳しいが、そのような時にこそ、職場で懸命に働く組合員の雇用と生活を、会社の責任において保証すること。③鉄道貨物輸送の復権をコスト論のみで行うことは不可能である。新中期経営計画の策定に当たって、労使で真摯な議論を十分に行い、将来展望を明確に示すこと。④収入拡大などの経営努力が職場で全く見えない。労使は黒字基調の経営を目指し具体的に取り組むこと。⑤JR貨物改革の実現に向け、これまで以上に強靱な労使の信頼関係を構築すること。を会社に突き付け、非常に厳しい判断ではありますが年末手当について妥結しました。

組合員の皆さん！申し入れ以降、回答指定日を大幅に超えた中でのたたかいとなりましたが、会社の頑なな姿勢を糾し、年末手当獲得のために職場から創意工夫した取り組みによって支えていただいた事に対し、深く感謝を申し上げます。

コスト削減一辺倒の経営手法で、経営計画を達成しようとする会社の無責任な姿勢を許すことは出来ません。今後も新中期経営計画の策定など重要な課題が山積していますが、責任組合としてチェック機能を果たし「組合版ロードマップ」の実現を通じて「安全・健康・ゆとり」を基軸とした職場環境を実現するたたかいを強化することとします。中央本部はその最先頭で奮闘することを明らかにし、年末手当交渉の最終報告とします。

以上